

「大自然を体で感じた」日

MELON創立10周年記念イベント&フォーラム「山・里・海・空・子ども」開催

9月6日（土）エルパーク仙台（141ビル5F）において MELON 創立 10 周年記念イベント&フォーラム「山・里・海・空・子ども」を開催しました。この催しは MELON 創立 10 周年を記念して、参加型のワークショップ的なイベントを中心に、参加者に楽しみながら環境問題について考えてもらおうと企画したものです。午前中は各テーマに分かれ、それぞれのフィールドでの参加型イベント、午後はエルパーク仙台セミナーホールに集合してフォーラムを行ないました。



テーマごとの詳細は 2 面の報告記事に譲りますが、ここでは概要だけ報告します。

「山」は深野稔生氏（MELON 理事）の案内により仙台市中心部から 30 分の大自然、蕃山を散策しました。「里」

は三浦隆弘氏（MELON 評議員）、NPO 法人まちづくり政策フォーラムさんの協力のもと、太白区坪沼周辺の民家などを訪れました。「海」は木村美智子氏（MELON 評議員）の案内により七北田川の上流か

ら太平洋に注ぐまでを、何か所かポイントを決めて観察などを行ないました。「空」は大学生による環境サークル RNECS（ルネックス）の企画により、映像や紙飛行機づくりなどを通して空の美しさ、すばらしさを体感しました。

「子ども」は、仙台の街の自然や施設を活かし子どもたちと楽しむ活動を行なっている NPO ゆいもりネットの企画により、勾当台公園を探検して身近な自然を発見し、旗に描いて表現しました。

当日は、朝のうち雨が少し降っていましたがやがて好天に恵まれ、どのフィールドも盛況の内にイベントを終えることができました。午後のフォーラムでも各テーマから楽しそうな報告がなされ、参加者の満足そうな笑顔がとても喜ばしく印象的でした。

今回は講演ではなく参加型のイベントで、一度に 5 箇所に分かれて行なうという初めての試みであり、事務局側は不安もありましたが、テーマごとのご協力者のご尽力により滞りなく進めることができました。ご協力いただいた皆さん本当にありがとうございました！



<Index>

- P1. 10 周年記念企画のご報告
- P2-3. 10 周年記念企画のご報告
- P4.3. CLUB-FOREST
かんきょう読み聞かせ
- P5. 七ヶ宿町長より特別寄稿

- P6. 学習会『省エネ博士になるぞ♪』
ストップ温暖化センターみやぎ「通信」
- P7. 環境市民講座「環境と長生き」
北六番町小学校でのみそづくり
- P8. 仙台スタジアムごみ減量大作戦
新入会員紹介
編集後記
会員状況



山 “山” を感じてみよう！ワークショップin蕃山

テーマ「山」は、青葉山トンネルを西側に抜けたところに位置する手つかずの大自然、「蕃山」を散策して、自然の良さを楽しんでもらうとともに身近な里山のあり方について考えました。朝はあいにくの雨で雨具を用意しての出発となりましたが、みるみる晴れ間が顔をのぞかせ、展望台からは仙台の街が一望できました。

MELON 理事で山岳ガイドでもある深野稔生氏の説明を聞きながらの楽しい散策でしたが、随所に考えさせられる点もありました。例えば、目印に木の枝にまいてあるビニールテープは鳥の足にからまるととれなくなることで、また熊出没注意の看板は、熊

が悪者のように表現されているが熊の住む領域に入り込んでるのは人間のほうではないのか、などです。考え方は様々だと思いますが、自然を楽しむからには自然に対して最低限の敬意は払いたいものだと思います。



里 里の魅力・再発見！坪沼に行ってみよう



「里」の企画では NPO 法人まちづくり政策フォーラムの協力を得て、仙台市太白区の坪沼地区に 26 名の参加者とともに出かけました。昔ながらの民家、NPO の運営によるプチファームという「市民農園」、地域の歴史を感じられる八幡神社、里の自然と人に触れてきました。

午後には現地で撮った写真を使い、坪沼地区の魅力を紹介するマップを参加者全員で作成し、「おいしそうなくらし、人と自然、身近にある桃源郷」というメッセージを作りました。

参加者の方の一人は「仙台市街地から嫁がれたお嫁さんが、地域の文化を守るのに貢献しているのが印象的だった」という感想を話されていました。

海 七北田川から太平洋にのぞむ！

「海」の企画では、七北田川上流から七北田川沿いに川を下り、蒲生干潟に行ってきました。東北文化学園大学講師の木村美智子先生 (MELON 評議員) と MELON 理事の堤恵美子さんに協力をいただき、バスの中ではお二人から七北田川や地名に関する由来、川についてなどのお話を聞きました。

出発時に降っていた雨は七北田ダム湖畔公園に着く頃には晴れ、元気に鳴く蝉の声が聞こえました。次に、私たちの飲み水となる水を取水するところを見てほしい、と福岡浄水場付近の取水口に立ち寄りました。取水口を初めて見る方も多く、子どもも大人も熱心に観察していました。

帰りのバスの中で感想をお聞きすると、一つの川を上流から河口まで下る中で様々なことを感じ、考えていただけたようで、次のような感想もいただき

ました。「蒲生干潟では多くの釣り人達が見られ、私達の癒しの空間となっていました。その素晴らしい場所を壊さないためにも、私達一人一人が日頃の生活にも気を配りながら、将来の子ども達に残していきたい」。



